性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会
(第25期・第5回) 議事要旨

1 日時 : 令和3年8月11日(水) 10:00~12:00

2 場所 : オンライン

3 出席者 : 渡辺 美代子、河野 銀子、高瀬 堅吉、野尻美保子、伊藤 公雄、
上田 修功、安田 仁奈、能瀬さやか(以上、名簿順)
(事務局) 大山 研次、森田 健嗣

4 議事要旨

(1) 前回議論の確認

第4回分科会の議事について確認した。

(2) 「AIにおける公平性」に関する話題提供

上田委員より、資料1に基づき話題提供があった。

(3) 意見交換

上田委員の話題提供に基づき、意見交換を行った。主な質問やコメントは下記の通りである。

● AIを取り巻く環境に関して

・AIは社会を反映したものであり、その社会情勢のなかでも、公平性を担保するためにAI研究者が努力していることが理解できた。しかし、技術だけでは解決しきれない。AIに関わる人材は男性が多いなどの課題がある。AIを取り巻く環境として、技術開発に関わる人材の多様性を確保することも必要ではないか。

→その通りだと思う。その点については内閣府のAI戦略でも議論されている。

・日本社会はジェンダーに関する課題が発見されてから、改善されるまでのタイムラグが長い。また、AI推進に関する取り組みについて、ジェンダーの視点を持った人材が豊富ではない。

→すべてご指摘のとおりである。また、ジェンダーに関する課題が発見された際のマスキの取り上げ方も弱いと思う。さらに、ジェンダーに関する課題について、女性の働きかけも欧米諸国に比べて弱いように思う。

・AI 関係の集まりに参加すると、女性なら居心地が悪く感じる例が使用されるケースをしばしば見る。

→ジェンダー意識が低いために起こる問題だと思う。その例を使用することによって女性が気分を害するという視点が欠けている。

- 公平性に関して

・集団公平性と個人公平性について、性別の設定に多様性が必要なのではないか。

→その通りだと思う。また、多様性の背景にある価値観をどのように扱うのかという点も非常に重要である。

・個人公平性について、既に社会の中に差別的な構造がある場合、公平性が担保されないのではないかという懸念がある。例えば、シフトをたくさんとる人は昇格させなければいけないなど、女性には不利な労働環境が当たり前となっている中で比較することは、公平性の担保につながらないと思う。

→センシティブ特徴に何を选ぶかという点と、その基盤となる価値観について議論することで、公平性を担保することができると思う。

・日本はジェンダーセンシティブな視点が欠けている。また、欧米では、公平性に関する議論が日本よりも進んでいる。AI 開発が進むと、男性の労働の機会代替も進むのではないか。非常に重要な問題提起だと思う。

- AI と社会に関して

・AI で社会や人々が認識できていない潜在的な差別やバイアスを人々に認識させるためのツールとして使うこともできるのか。

→使用可能だと思う。

・AI が実際に社会的に影響のあるデータを出してしまった場合に、どのように対応すべきなのか。

→悪意を持って人為的に出したデータをAI のせいにするような事例もあるので、慎重な検討が必要である。

以上の意見交換を踏まえ、分科会として下記について共有した。

・AI は人の社会を客体化するものである。AI を通じて人の社会の課題を発見することができる

・AI 推進にあたり、改めて公平とは何かの議論が重要である。

(5) 次回内容の確認

性スペクトラムの研究者による話題提供、および今後の進め方の検討

(6) 今後の活動について

今後の活動について、意見交換を行った。主なコメントは下記の通りである。

- ・今期の2年目くらいまでに提言を出してから、関係者を招聘して議論する、関係先を訪問するなどの活動を行ってはどうか。
- ・ジェンダードイノベーションはとても重要なので、意見表明は重要である。書籍を通じた発信を行ってはどうか。その際、デジタル書籍や漫画、絵本なども選択肢として検討してはどうか。内閣府の男女局への働きかけも必要。
- ・LGBTQ という概念の広まりを考えると、性スペクトラムという概念の重要性を提言に盛り込む必要があるのではないか。
- ・ジェンダードイノベーションを推進するために、性差研究を徹底的に推進すべきであることを提言に盛り込む必要がある。また、性差研究の公開にあたって、その解釈や公表の仕方を考慮すべき点であるという点も盛り込む必要がある。
- ・医療データに関する信頼性が十分に確保されていないように思う。そのため、研究のクオリティを高める努力についても提言に記述したほうが良い。
- ・AI 研究にジェンダー視点を入れることが重要であり、研究開発体制についても多様な参画が必要であることを、述べたほうが良い。
- ・ジェンダードイノベーションをシチズンサイエンスと絡められると良い。
- ・ジェンダーを前面に押し出すのではなく、公平性を確保するための一つの要因としてジェンダーを提起するのがよい。
- ・AI に関して誤解がないように、シンポジウム（学術フォーラム）を開催してはどうか。海外のジェンダーと AI に詳しい方に話題提供をお願いしたい。
- ・学術フォーラムはコロナ関連で予定されているため、枠の確保が難しいかもしれないが、コロナの問題とも関連するので提案するのはよいのではないか。

以上